



建築士会連合会委員を終えて

新海 直美 (札幌支部)

令和2年6月いっぱい、2期4年の連合会女性委員会の委員を終えました。

連合会の委員って何をしているの?という方も多いかと思います。建築士会連合会は、全国の各都道府県建築士会からなる組織です。まちづくりや青年、法制度など10ほどの委員会があり、女性委員会もその中のひとつ。委員会は各都道府県の会員で構成されていて、私はその中のひとりでした。

女性委員会は、女性建築士の活動の活性化や育成が主な目的で、年に1回開催される、全国女性建築士連絡協議会(以下全建女)や全国大会のセッションなどの企画・運営をしています。硬い説明になってしまいましたが、全国の女性建築士が活躍している様子を伝えたり、情報交換する場をつくるのが女性委員の仕事です。

大変そう...と思われるかもしれませんが、実際大変な部分もあります。しかしながら集まった委員との交流や各地域での活動の状況に触れることで、新たな発見があったり、仕事や生きる上での励みになったりとプラスとなったことの方が多く、やらせて頂いて良かった!と思っております。

新型コロナの影響で、今年度の全建女や全国大会は延期となってしまいましたが、こんな時こそきっと元気が貰えるので、皆さんにも女性委員会の活動に参加してみたいです。全建女は来年広島での開催となります。是非ご参加頂けると嬉しいです!

ちなみに、今年度から小樽支部の本間恵美さん(写真右下)が連合会女性委員長となりました!



H30-31の委員とパチリ(持っているのは名札です)

～ウポポイ～ アイヌ民族の暮らしを体感!

佐々木 弓 (室蘭支部)

今年7月21日にオープンが延期になっていた、白老町ウポポイ民族共生象徴空間へ行ってきました。



もうすぐウポポイ!

新型コロナウイルス感染防止対策により入場の際の赤外線サーモグラフィ測定や、各施設見学会場への入場人数制限などの配慮がなされ、安心して見学できました。



森が描かれたコンクリートの廊下

いざないの回廊はアイヌ民族の世界へ導かれるような不思議な空間



エントランスは広々としたスペース

エントランス棟の奥にアイヌ民族博物館があり、国立の建物はやはり流石の迫力でした。



ウポポイのマーク



室内は仕切がなく 立派な
広いスペース 小屋組みです

チセの伝統的な技法の造りがスケルトンで見学できる場所もあり、規模の異なるチセが3棟建っていました。アイヌ民族の暮らし方やカムイとの関わりなどのお話も聞け、自然との向き合い方を振り返る時間になりました。



外の景色が絵画のようです

広い施設内には管理運営施設も含め、体験学習館、体験交流ホール、工房などの建物があり、その他にも野外ステージでの芸能、アイヌ文化を直接感じることでできる語りや仕掛け弓実演、丸木舟操舟実演も体験できて、人数制限の中、一日で見学するには足りないくらいのボリュームです。



バスのデザインも素敵でした!

バスにも書いてあるイランカラプテはアイヌ民族の挨拶の言葉だそうです。是非、皆さんも一緒に!イランカラプテ~!